

# 「否定するわけじゃないんだけど」： 日本語日常会話におけるヘッジ表現にみられる「否定」の使用

臼田泰如  
国立国語研究所 研究系  
usuda@ninjal.ac.jp

## 概要

本研究では、日本語日常会話においてしばしば見られる、サ変可能名詞（ならびにサ変動詞）「否定（する）」を用いた表現に着目する。当該の語の使用のうち、本研究において特に焦点を当てるのは、「否定するわけではないけど」に類するフレーズの形で出現するものである。このフレーズには多くの場合、これに後続する位置における一連の発話において、話題になっている物事についての否定的評価が述べられる際に、その否定的評価の直接性・攻撃性を緩和する機能をみてとることができる。本研究では、こうした「否定（する）」について、『日本語日常会話コーパス』における出現状況を概観し、他のサ変可能名詞のふるまいとの比較を行う。

## 1 はじめに

日本語の日常会話において（あるいはウェブ上のやりとりなど、日常会話に準ずる言語使用において）、例 1 にみられるような意味・用法における「否定（する）」というサ変可能名詞（ならびにサ変動詞）が散見される。

例 1<sup>1)</sup>では、参与者 A が同席している B の過去の言動について参与者 E に話している<sup>2)</sup>。この断片に先行する箇所では、A は B について、明け方までお酒を飲み歩いた上で翌朝には何事もなかったかのように出勤してくるとし、その体力やアルコールへの強さを賞賛的に提示しており、B も大筋で内容を認めている。断片はそれに続く箇所では、その時点までに語った内容を「全否定」(4) し、「4 時間寝たあとに」(15)「会社に来た時に」(16)、「まだ酒残ってる」(19)と述べた事例を挙げ、「四時間寝ても大丈夫

### 例 1: ヘッジ用法の「否定」を含む会話断片

- |      |   |                                |
|------|---|--------------------------------|
| 1    | A | (F あ) さ                        |
| 2    | A | 今                              |
| 3    | A | 今 それをさ;                        |
| 4 >  | A | 普通に: 全否定する形になっちゃうかもしれない        |
| 5 >  |   | けど。                            |
| 6    | A | えーと 先週の                        |
| 7    | A | 先週かな?。                         |
| 8    | B | うん?。                           |
| 9    | A | うん。                            |
| 10   | A | その 朝 四時に: 新 (L 橋から: タクシーで帰って)。 |
| 11   | B | うん。                            |
| 12   | B | うん。                            |
| 13   | B | うん。                            |
| 14   | A | うん。                            |
| 15   | A | 四時間寝たあとに                       |
| 16   | A | 会社に来た時に                        |
| 17   | A | ゆった一言。                         |
| 18   | A | うん。                            |
| 19 > | A | まだ酒残ってる (L ってゆったのを覚えてるから       |
| 20 > |   | 四時間寝ても大丈夫じゃない)。                |
| 21   | B | うん。                            |

じゃない」(20) という理解を提示している。この例においてみてとれるように、4 行目の「全否定する形になっちゃうかもしれないけど」は、それに後続する位置における一連の発話において、現在話題になっていることがらに関する否定的な言明がなされる位置において出現している。

こうした表現はヘッジ (hedge[1, 2, 3]) と呼ばれ、否定的な評価など、やりとりの相手の「メンツを潰す face-threatening[2]」行為を行わざるを得ない際に、それをできるだけ緩和して行うための方法の一つであるとされる。さらによく観察すると、こうした否定的言明・評価は慎重になされていることがわかる。A は 6 行目から当該の事例についての語りを開始し、出来事を時系列的に提示することで、自身の評価だけでなく、20 行目の評価に至った理由や根拠を理解可能にしている。またそうした出来事の提示に対し、もう一人の当事者である B も理解を示しながら参与している。つまりこの表現は否定的評価の表出および受け入れというやりとり上の課題を共同で解決するシグナルになっているといえる。4 行

1) 転記テキストに使用されているタグについては末尾の付録参照。掲載スペースの制約により、転記テキストからは時間情報を削除して提示している。

2) この間 E は発話していない。また C と D は別の話をしているため、C と D の発話は削除した。

目は、そのようなシークエンスを開始するための談話標識 discourse marker[4] として機能している。

本研究では、上記のような観察・質的分析を踏まえ、例 1に見られるような、否定的言明を導くヘッジ表現に出現する「否定」について分析するため、『日本語日常会話コーパス』における「否定」の出現状況について概観する。3で扱うのは、「否定」の発話者の情報、および前後の語彙の分布である。

## 2 データ

本研究で扱うデータは、国立国語研究所によって構築・公開された『日本語日常会話コーパス (CEJC)』[5] である。CEJC は日常生活における会話の多様性をできるだけ反映し、さまざまな研究に利用可能な形で提供するため、音声および映像と文字起こしテキストを利用可能な形で提供するほか、以下のような特徴を備えるよう設計されている。

- ・大規模：200 時間分の会話データ
- ・代表性：年齢・性別・属性・会話の種類の均衡性を考慮
- ・検索性：形態論情報(品詞、文中の位置、発話時間など)

## 3 コーパスでの「否定」の出現状況

### 3.1 「否定」の出現数

次の表 1は、『日本語日常会話コーパス』における「否定」の出現数、およびその「否定」がヘッジ用法にて用いられている件数、ならびにサ変可能名詞およびすべての短単位の総数を示したものである [6]。

表 1 「否定」およびサ変可能名詞の出現数				
「否定」 総数	ヘッジ 用法	サ変可能 名詞総数	サ変可能 異なり数	短単位 総数
44	5	45072	2966	2234522

「否定」は CEJC 全体で 44 件出現しており、これはサ変可能名詞の中で 202 番目に多い。このうち連鎖の観察からヘッジ表現であると考えられるものは 5 件あった。

### 3.2 話者の属性、会話の性質

図 1と図 2はそれぞれ「否定」とすべてのサ変可能名詞の使用者の年齢、図 3と図 4はそれぞれ「否定」とすべてのサ変可能名詞の使用者の職業、図 5と図 6はそれぞれ「否定」とすべてのサ変可能名詞が

使用された会話の形式を示している。

図 2は、サ変可能名詞全体ではおおむね参加者全体の年齢構成を反映した分布となっていることを示しているが、図 1からは、「否定」においては 50 代および 60 代が多くなっていることがみてとれる。追って触れるが、この傾向は会話の種類分布にも関連していると考えられる。

先に図 3と図 4における職業の分布を概観する。「否定」ではサ変可能名詞全体に比べて「自営業・自由業」の比率が少なくなっているが、それ以外の大きな分布の差はみてとることができないといえる。

ついで図 5と図 6における、「否定」およびサ変可能名詞の使用された会話の形式を検討する。「雑談」はいずれの図においても最も多いが、「否定」は「雑談」と並んで「会議・会合」での使用が多くを占めることがみてとれる。これについて、表 2に会話形式と年齢の関係を示した。表 2からは、相対的に 40 代・50 代における会議・会合への参加が多くなっていることがみてとれる。こうした傾向性が「否定」の使用に関連している可能性がある。

表 2 会話形式と年齢の関係  
会議・授業・用談・雑談  
会合 レッスン 雑談

	会議・ 会合	授業・ レッスン	用談・ 雑談	雑談
0 代	8	2	35	129
10 代	38	14	55	270
20 代	106	4	164	838
30 代	123	9	199	872
40 代	109	21	285	1019
50 代	146	15	256	1036
60 代	106	13	186	806
70 代	87	4	84	467
80 代	39	0	27	162
90 代	3	0	15	73
NA	101	10	185	1103

### 3.3 「否定」の前後の語彙

図 7と図 8はそれぞれ、「否定」とサ変可能名詞に先行する短単位の品詞、図 9と図 10はそれぞれ後続する短単位の品詞の種類を大分類で示したものである。図 9のみ、直後には動詞と助詞が多いが、それ以降には動詞が減り、助動詞が多くを占めるようになる。このことは、サ変可能名詞全体に比べて「否定」は「否定する」の形での使用率が高いことを示唆する。

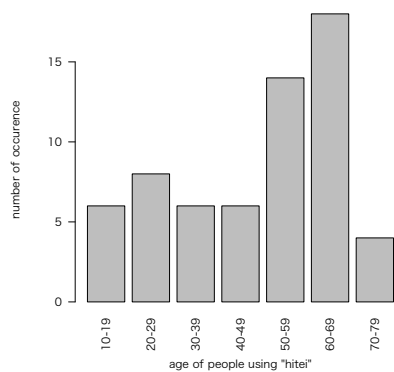


図1 「否定」使用者の年齢

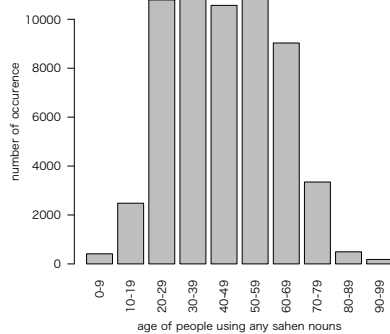


図2 サ変可能名詞の使用者の年齢

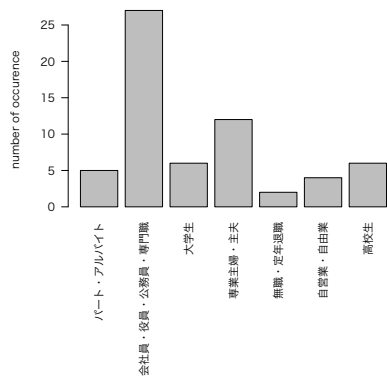


図3 「否定」使用者の職業

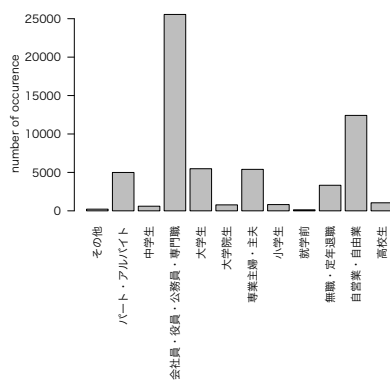


図4 サ変可能名詞の使用者の職業

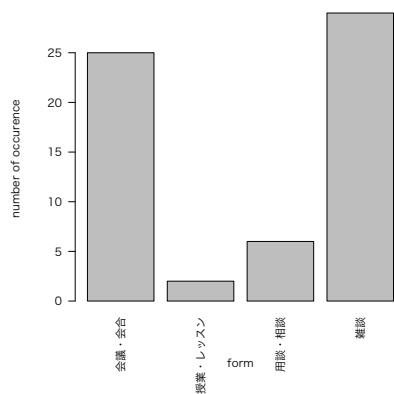


図5 「否定」が使用された会話の種類

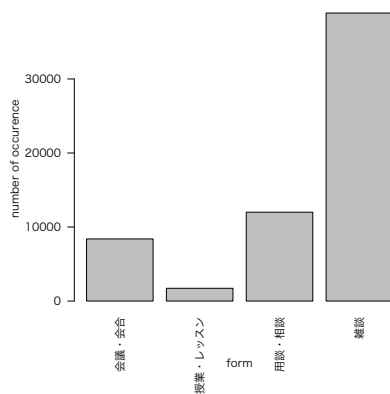


図6 サ変可能名詞が使用された会話の種類

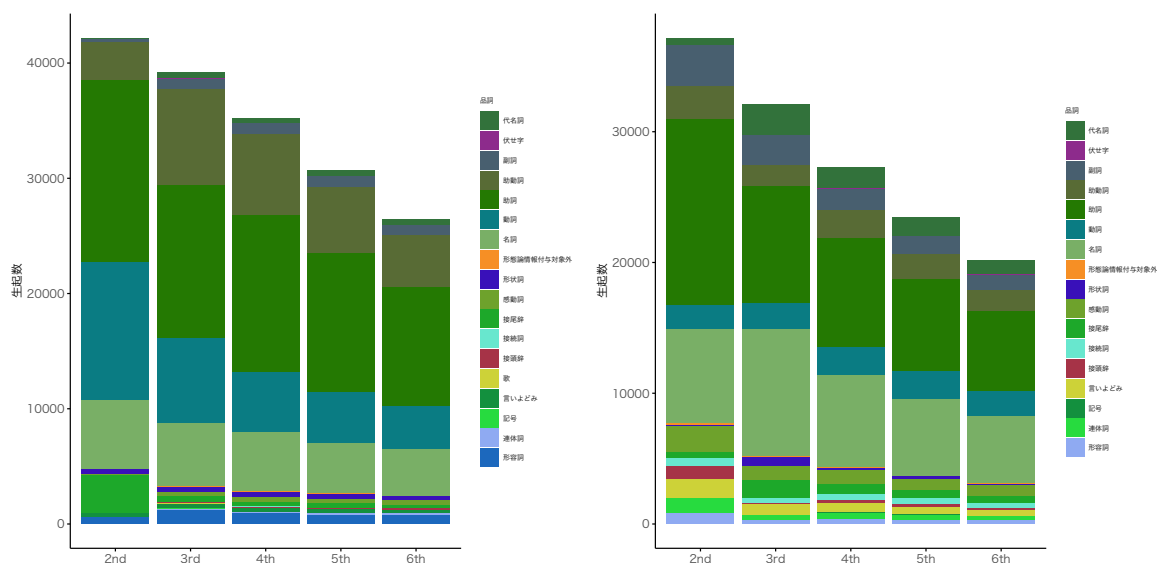


図7 「否定」に先行する品詞

図8 サ変可能名詞に先行する品詞

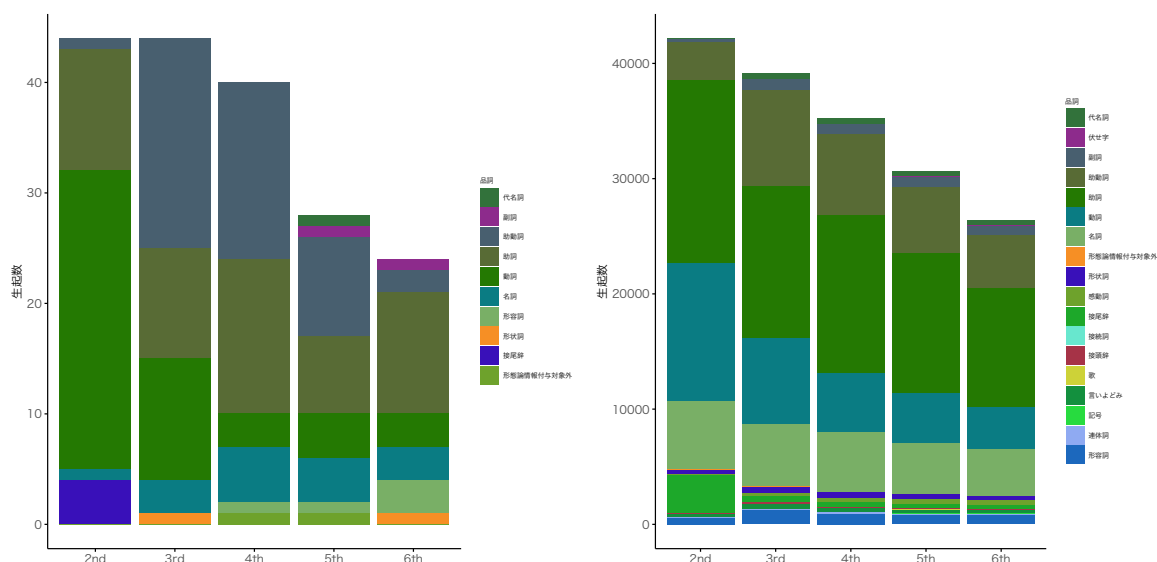


図9 「否定」に後続する品詞

図10 サ変可能名詞に後続する品詞

## 謝辞

本研究は国語研共同研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」の成果に基づいている。

## 参考文献

- [1] George Lakoff. Hedges: a study in meaning criteria and the logic of fuzzy concepts. *Journal of Philosophical Logic*, Vol. 2, pp. 458–503, 1973.
- [2] Penelope Brown and Stephen C. Levinson. *Politeness: Some universals in Language Usage*. Cambridge University Press, Cambridge, 1987.
- [3] Bruce Fraser. Pragmatic competence: The case of hedging. In Gumther Kaltenböck, Wiltrud Mihatsch, and Stefan Schneider, editors, *New Approaches to Hedging*, pp. 15–34. Emerald Group Publishing Limited, 2010.
- [4] Deborah Schiffrin. *Discourse Markers*. Studies in Interactional Sociolinguistics. Cambridge University Press, Cambridge, 1987.
- [5] 小磯花絵, 天谷晴香, 石本祐一, 居關友里子, 白田泰如, 柏野和佳子, 川端良子, 田中弥生, 伝康晴, 西川賢哉, 渡邊友香. 『日本語日常会話コーパス』の設計と特徴. 言語処理学会第 28 回年次大会発表論文集, pp. 2008–2012, 2022.
- [6] 小磯花絵, 天谷晴香, 石本祐一, 居關友里子, 白田泰如, 柏野和佳子, 川端良子, 田中弥生, 伝康晴, 西川賢哉, 渡邊友香. 『日本語日常会話コーパス』—設計・構築・特徴—. 国立国語研究所「日常会話コーパス」プロジェクト報告書 6, 2022.

■ 非語彙的な発音の変化や言いよどみに関わるもの

タグ	概要	使用例
:	非語彙的な母音の引き延ばし	すご:い, けれども:
%	非語彙的な音の詰まり	す%ごい, 解%析
(W)	言い誤り・発音の怠け等の一時的な発音エラー	(W コエ これ), (W ギーツ 技術)
(D)	語の言いさし	(D コ) 明日から, (D #)

■ 韻律・パラ言語的情報に関わるもの

?	疑問型上昇調 (強調型上昇調は除く)	行きます?, コップ?
(T)	小さい声で発話している箇所	(T これじゃないのか)
(L)	笑いが生じている箇所, あるいは単独の笑い	これ (L なんですけど), (L)
(C)	泣きながら発話している, あるいは単独の泣き	(C なにが?), (C)
(S)	歌いながら発話している, あるいは歌詞を伴わない歌	(S ヘイヘイホー), (S)
<>	発音に類する行為のうち会話の流れに関わるもの	<舌打ち>, <咳>, <口笛>

■ 聞き取り等の判断の信頼性に関わるもの

(U)	聞き取りや語の判断が不確かな箇所	(U ジャック) に, (U 国産/特産)
(X)	語が不明な箇所	(X フンジン) 中に, (X # # #)

■ 転記テキストの可読性や内容理解の補助等に関わるもの

(K)	タグ等のために漢字表記できず可読性が落ちる箇所	(K シ:ツ 質) 間, (K ナ%シ 梨)
(M)	音や言葉自体が言及の対象とされており (W) などで対応すると把握しづらい箇所	すごいを (M すっごい) と発音
(O)	一般的に理解が難しい外国語・方言が用いられる箇所	(O ボッソワ), (O # # #)
(B)	喃語。乳児の音声に対してのみ付与する	(B アー), (B バ # # #)
(Y)	漢字表記の一般的な読みと発音が異なる箇所	(Y ゼツ 舌), (Y センゲン 浅間)
(G)	可読性が低い口語表現	(G 嫌 や), (G もう も)
(F)	「あの」「その」等がフィラーとして用いられる場合	(F あの), (F そーの:)
(I)	「あ」「え」等の感動詞が挿入構造の内部にあり発話単位として分割されていない箇所	最近 (I あっ) 付いてるみたいなの。

■ 発話単位・転記単位に関わるもの

。	発話単位末	食べます。 , やったけど。 , うん。
+	知覚可能な休止により 1 短単位が分割される箇所	す+ごい, 神+田川

■ その他

(R)	個人情報などに関わる仮名・伏字処理を行った箇所*	(R 国語) 大学の (R 佐藤) さん
@	発話に対するコメント	お願いします:す。 @店員への応答

\*仮名化する際、元の語のモーラ数が一致するようにしている。

図 11 付録:『日本語日常会話コーパス』の転記タグ一覧 [6]